

# 「土をつくる、たい肥をつくる」

## -津山市久米堆肥処理施設「ゆうきの丘」-

美作県民局畜産第1班

「土づくりへの思いが、たい肥づくりにつながっています。」と話すのは、津山市久米堆肥処理施設「ゆうきの丘」の富山勝さん。



ローダーの操縦は、富山さん。

「ゆうきの丘」は、稼働から約12年。環境問題の解消を図るとともに、良質なたい肥を利用して高品質な農産物を生産し、環境保全型農業を推進するために建設されました。富山さんは、この施設の建設計画から関わり、作物の生産はもとより、施設/機械の勉強もしたそうです。「農産物の生産にはどういうたい肥が良いのか、どういうものが望まれるのか。」知識を積み上げた結果、たどり着いたのが、もみ殻を使った牛糞たい肥。根本は「ドベネックの桶」です。」と話されます。

良質な農産物生産のために、土づくりへの思いを込めたたい肥「ゆうき」。土づくりのためには、たい肥は継続して使ってもらうことが基本。たい肥（13kg袋が350円）は、広域に販売するのではなく、地元で長く使用してもらいたいと、JAや道の駅「久米の里」など久米地域を中心に販売されています。バラたい肥5,500円/tもあります。旧久米町内には配達、散布（別途料金）もしてくれます。

現在、久米地域では久米青空市生産組合（有機野菜を出荷）の人たちが「ゆうき」を土づくりに使っており、その土で育てた有機野菜は道の駅「久米の里」で販売されています。売れ行き好調！

最近では、「ゆうきの丘」にたい肥のことで、相談に来る人もいるということです。

もみ殻の確保や施設の運営など多々問題もあるようですが…。

お近くの方は、是非、富山さんの「ドベネックの桶」の話聞きに、ゆうきの丘を訪ねてみてはどうでしょうか。遠くの方は、ドライブがてら、道の駅「久米の里」に足を運んでみては？



こちらは、製造担当の岡さん。



事務所入口には「ドベネックの桶」の文字が。



施設の Mascot です。

●この製品は、牛ふんに粉砕もみ殻を主に混合し、発酵させた堆肥です。

基準施肥量 (10a当り)	成分率 (%)
水稲 800~1,200kg	窒素 0.92%
野菜 2,000~3,000kg	りん酸 0.82%
果樹 1,000~2,000kg	カリウム 1.38%
家庭菜園 (20㎡当り)	炭素率 18%

★土と均質になるよう混ぜ合わせて下さい。  
★施用標準量については、農協指導等に、お問い合わせ下さい。

袋詰 13kg 350円(税込)  
バラ 1t 5,500円(税込)

●お問い合わせ先  
製造元・津山市堆肥処理施設「ゆうきの丘」 TEL0868-57-7676  
販売・津山農業協同組合 TEL0868-57-3141